

III 文化財センターの事業

1 本発掘調査の概要

(1) 本発掘調査について

本市では、本発掘調査の要否について、文化庁の示した標準（平成10年9月29日付庁保記第75号 各都道府県教委教育長宛文化庁次長通知「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化等について（通知）」）及びそれを受けて細目を設定した新潟県教育委員会の基準（平成11年9月10日付「発掘調査の要否等の判断基準」）に即して判断している。

試掘・確認調査で遺跡の内容を十分に把握した後、開発事業者等と遺跡の取扱いについて協議する際、可能な限り本発掘調査が回避され、また調査せざるを得ない場合もその規模が最小限となることを目指している。しかし民間の宅地開発事業における道路部分や、公共事業では大規模な圃場整備での用排水路部分ではそうした回避策が取りにくく、本発掘調査に至ってしまう場合が多い。

本発掘調査実施にあたっては、『文化財保護法』第99条により、市教委がこれを実施するものとし、基本的に

直営の体制で対応しているが、調査担当はもちろん、その下に入る調査員となる市職員も人数が限定され、現場作業と並行して整理・報告書作成作業も遅滞なく進めていかなければならない中、民間調査組織の適切な導入と監理体制の構築が急務となっている。

しかし、近年、県や他市町村でも発掘調査が増加傾向にあり、民間調査組織の調査員も不足気味の現状があり、対応に苦慮しているところである。

(2) 平成25年度の本発掘調査

表1に示した通り、5遺跡で本発掘調査を行った。

民間事業にかかるものは小丸山東遺跡のみで、他は道路関係2件、圃場整備関係2件とすべて公共事業が原因である。

圃場整備の面施工部分が対象となった細池寺道上遺跡の調査面積が2,800㎡を超える他は、公共事業関係の本発掘調査では約2,000㎡前後の調査面積となっている。

（廣野耕造）

(3) 平成25年度の発掘調査現地説明会

本市では、発掘調査や文化財保護についての市民の理解を深めるため、各発掘調査現場において調査成果を公開する現地説明会を開催している。平成25年度は、4か所において現地説明会を開催した（表2）。小丸山東遺跡発掘調査の現地説明会は、面積が狭小で駐車場を確保することが困難なため行わなかった。（今井さやか）



下新田遺跡現地説明会風景

表2 平成25年度発掘調査現地説明会参加者数

年月日	遺跡名	参加者数(人)
2013/8/3 (土)	峰岡上町遺跡	90
2013/9/14 (土)	大沢谷内遺跡	106
2013/11/23 (土・祝)	下新田遺跡	40
2013/11/24 (日)	細池寺道上遺跡	75

表1 平成25年度本発掘調査一覧

調査番号	遺跡名	発掘調査面積(m ²)	所在地	調査の原因	調査担当	調査員	発掘調査期間	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2013001	小丸山東遺跡	116.1	江南区直り山字小丸山1046番1	宅地造成	遠藤恭雄	朝岡政康 八藤後智人	4/2~4/6	古代・近世	川跡・土坑・性格不明遺構	土師器・近世陶磁器・土製品 石製品・金属製品
2013002	大沢谷内遺跡	2,128.0	秋葉区横川浜17-1外	国道新設	相田泰臣	金田拓也 藤ノガミ 佐藤 俊	4/15~9/19	縄文・弥生・古墳 飛鳥・奈良・平安 鎌倉・室町・近世	掘立柱建物・井戸・土坑 溝・性格不明遺構・ピット	縄文土器・土師器・須恵器 中世土師器・珠洲焼・土製品 石製品・木製品・金属製品 骨角製品・アスファルト
2013003	峰岡上町遺跡	2,080.4	西蒲区峰岡262-2外	国道新設	前山精明	龍田優子 牧野耕作	4/22~10/7	縄文・弥生・古墳 奈良・平安・近世	掘立柱建物・井戸・土坑 土坑・畑・ピット・溝 遺構・性格不明遺構	縄文土器・土師器・須恵器 土製品・石製品
2013004	細池寺道上遺跡	2,814.6	秋葉区東金沢字稲場567-1番地外	県営圃場整備	立木宏明	藤吉田建設 中川見子 藤吉田建設 不破野希春	7/25~12/27	平安・中世	掘立柱建物・井戸・小土坑 土坑・溝・水田・杭列 不明遺構	古代土器・中世土器・石製品 鉄製品・礫・自然遺物
2013005	下新田遺跡	1,875.0	西蒲区道上字下新田5244外	県営圃場整備	龍田優子	藤シン技術コンサル 長澤展生	8/6~12/18	奈良・平安	井戸・柱穴・溝状遺構 土坑・畑・水田	土師器・須恵器 土製品・木製品
120.0										

2 平成25年度の本発掘調査

平成25年度本発掘調査の概要を次項より記す。概要は、調査番号順である。概要掲載遺跡の位置を図1、一

覧を表3に、試掘・確認調査の概要掲載遺跡と併せて示した。各項題は、調査名であり、末尾括弧内は調査番号である。(金田拓也)

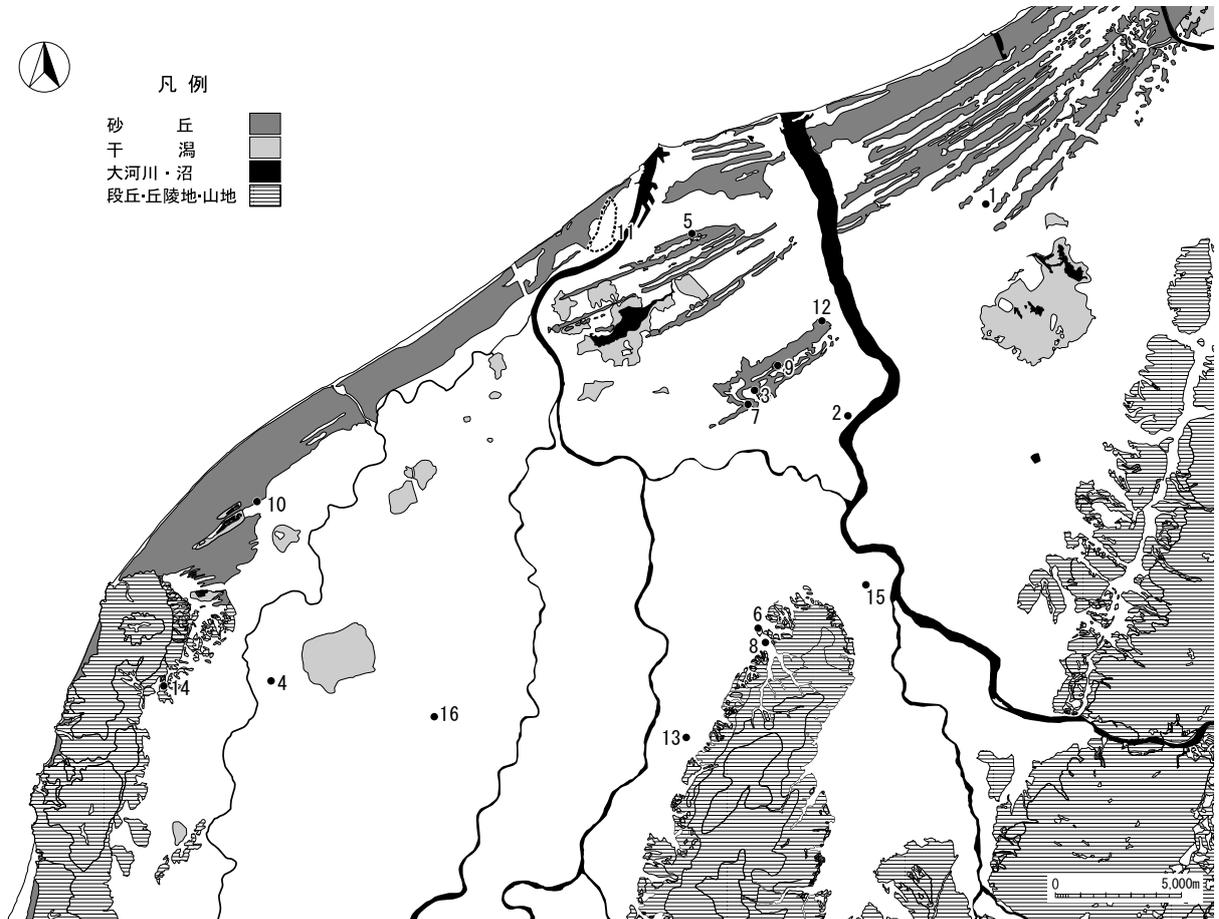


図1 平成25年度概要掲載発掘調査位置図 (1/300,000)

表3 平成25年度概要掲載発掘調査索引

平成25年度事前審査に係る試掘・確認調査

遺跡番号	遺跡名	調査回数(次)	調査番号	位置番号(図1)	掲載頁
291	正尺A遺跡	16~20	2013105	1	7
			2013116		
			2013151		
			2013172		
			2013173		
758	下郷南遺跡	1・2	2013106 2013152	2	11
419	三王山遺跡	14	2013109	3	20
756	新道遺跡	1	2013111	4	21
757	山木戸居付遺跡	1	2013113	5	23
164	桜大門遺跡	4	2013134	6	24
391	日水南遺跡	6	2013142	7	25
134	塩卒遺跡	7	2013155	8	28
11	前山遺跡	7	2013162	9	29
53	前田遺跡	11	2013215	10	31
575	近世新潟町跡		2013131	11	32
			2013195		

平成25年度本発掘調査

遺跡番号	遺跡名	調査回数(次)	調査番号	位置番号(図1)	掲載頁
752	小丸山東遺跡	1・2	2012184 2013001	12	38
342	大沢谷内遺跡	21	2013002	13	42
731	峰岡上町遺跡	3	2013003	14	43
151	細池寺道上遺跡	41	2013004	15	44
573	下新田遺跡	8・9	2013005	16	45
			2013006		



本発掘調査風景(平成25年度大沢谷内遺跡)

(1) 小丸山東遺跡 第1・2次調査
(2012184・2013001)

所在地 新潟市江南区直り山字小丸山1046番地1
 調査の原因 宅地造成（民間）
 調査期間 平成24年10月12日（201284）
 平成25年4月2日～4月6日（2013001）
 調査面積 116.1㎡
 調査担当 諫山えりか（201284）
 遠藤恭雄（2013001）
 調査員 朝岡政康 八藤後智人（2013001）
 処置 記録保存

調査に至る経緯 平成24年10月5日付で、(株)真柄建築事務所（以下、事業者）より、宅地造成に伴い、市教委宛てに照会があった。これを受けて、平成24年10月12日に試掘調査を行った。6か所設定したトレンチのうち調査地中央部の2Tで平安時代の遺物3点（41p写真1～3）が出土し、遺物包含層（XI層）の残存が確認されたことから、新遺跡として周知化された（第1次調査）。なお、小字名と小丸山遺跡の東に位置する立地から、本遺跡の名称を「小丸山東遺跡」としている。

宅地造成に伴い新設される道路の範囲内に、平安時代の遺物が出土した2Tが含まれることから、事業者と協議を進めた結果、2Tから北側の道路新設範囲、約150㎡について本発掘調査を実施することで合意した。平成25年3月21日付で事業者より依頼文および『文化財保護法』第93条の届出があり、平成25年4月1日付新歴F第56号で『文化財保護法』第99条第1項による発掘調査の通知を提出し、同年4月2日より調査に着手した。

位置と環境 遺跡は、阿賀野川と信濃川の間にはさまれた新潟砂丘の新砂丘I-3列（亀田砂丘後列）北東端部に位置する。阿賀野川左岸まで東へ1kmの距離にある。南東約300mの小砂丘上には、平安時代の集落跡である小丸山遺跡が、南約300mの同一砂丘頂部付近には、松山遺跡が所在する。

調査は宅地造成区域の道路部分幅6m、延長約25mを対象とした。計画道路中心線を軸に10m方眼の大グリッドおよび2m方眼の小グリッドを設定し、南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットで表示した。調査範囲内の2C-1グリッドの座標は、X座標209742.351、Y座標56497.802で、座標北は真北方向に対し0度23分40秒西偏する。標高は、砂丘端部にあたる調査範囲では、南端の最高所で2.6m、北端部で2.1mを測り、南から北に向かって2%程度の緩やかな下り勾配となっている。

基本層序と検出遺構 現地表面から0.3～最大1.2mの深度まで盛土など近世～現代の堆積物がみられ（I層）、

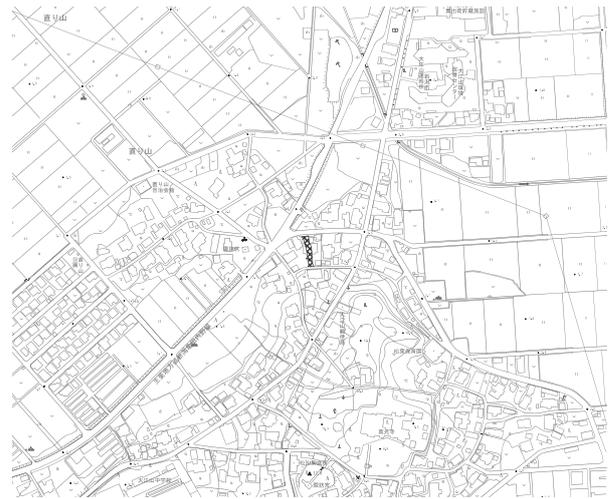


図1 調査位置図（1/10,000）

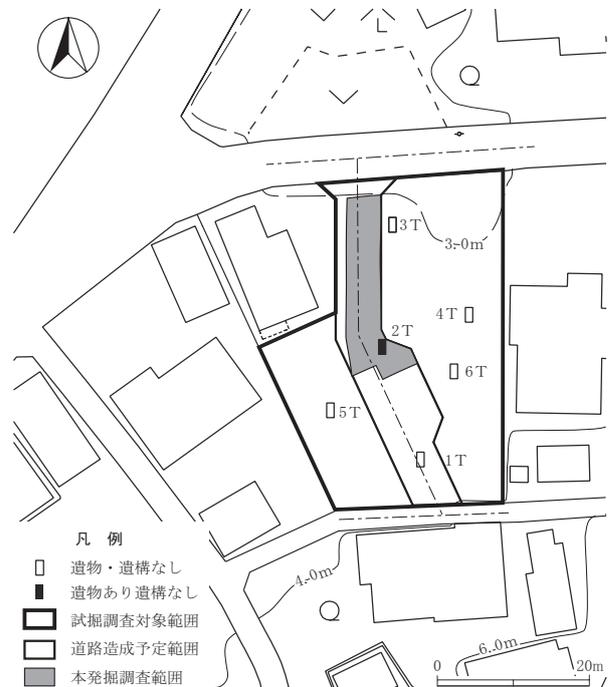


図2 トレンチ位置図（1/1,000）

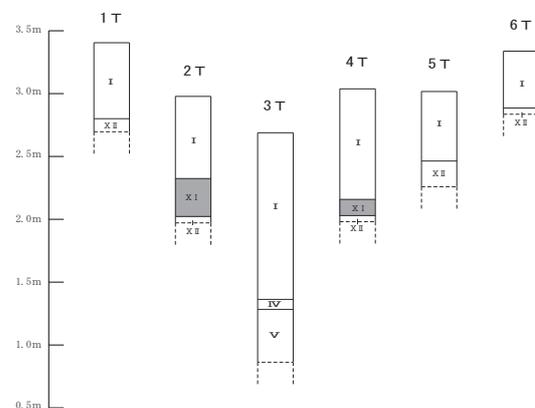


図3 第1次調査土層柱状図（1/60）

※ローマ数字は第2次調査基本層序（図4）と対応する。第2次調査に合わせてI層の表示を改変している。

その下層では、川跡1を境にして南側では砂丘砂の堆積（Ⅻ層）、北側では砂丘間低地に堆積する粘質土層（Ⅱ～Ⅸ層）が検出された。川跡1南側の砂丘落ち込み部では、部分的に灰褐色の遺物包含層（XI層）が残存し、調査区北端部（図4基本層序①）では、表土から3.2mの深度（標高-0.7m）で黒褐色砂層（X層）を確認した。砂層堆積の想定線を図4に示した。

検出遺構は土坑2基（SK1・2）、性格不明遺構1基（SX3）、旧流路2条（川跡1・2）である。

SK1はI層中から掘り込まれ、17世紀～19世紀の陶磁器が出土している（41p写真6～8）。近世以降の廃棄土坑とみられる。SK2は、I層直下からⅫ層を掘り込む円形の浅い土坑である。埋土はI層で遺物包含層XI層に類似する。遺物は出土していない。平安時代の遺構の可能性もある。SX3はI層直下からXI・Ⅻ層を掘り込んでおり、川跡1を切る。遺物の出土はないが、埋土から近世以降のものと考えられる。

川跡1はI層直下で検出され、Ⅱ～Ⅴ層およびXI・Ⅻ層を切る。幅6.2m、深度0.8mを測り、南東から北西方向に延びる。遺物は出土していない。平安時代の遺物包含層XI層を切ることから、同時期以降のものである。川跡2は、Ⅲ層直下で検出され、Ⅳ・Ⅴ層を切る。川跡1より古い。幅3m、深度0.2mを測り、南東から北西方向

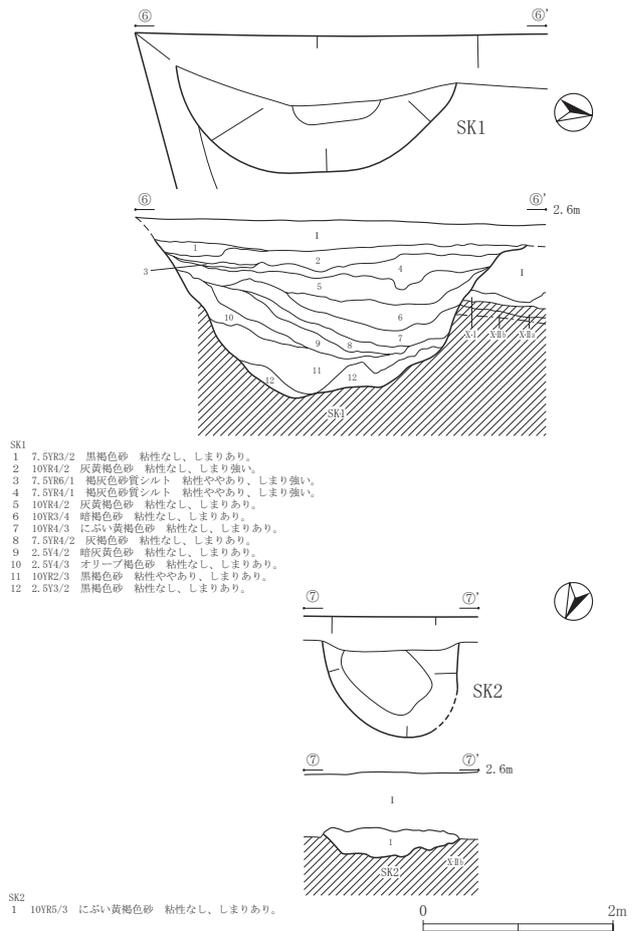


図5 遺構実測図（1/80）



着手前現況（北東から）



調査区完掘状況（南東から）



SK2完掘状況（北から）



川跡1 断面（西から）

に延びる。遺物は出土していない。

出土遺物 第1次・2次調査の出土遺物を合わせて報告する。

土師器5点が出土している。1～3は1次調査2T、XI層で出土したロクロ成形の土師器長甕である。1を図化した(図6)。口縁形状から9世紀代のものと考えられる。4・5は、調査区北端の粘土堆積層(VII層)から出土している。非ロクロの土師器甕体部片で、いずれも外面に縦位のハケメ調整がみられる。胎土と調整が共通しており、接合関係はないが、同一個体の可能性が高い。8世紀代のものと考えられる。

近世以降の陶磁器がコンテナケースで3箱分出土している。SK1でまとまりがあるほかは、ほとんどが調査区表土の盛土中(I層)で出土している。16世紀末～17世紀代を上限に18世紀代～近現代の所産である。

ほかにI層からは、太形管状土錘(12)・軽石製石製品(13)や砥石、銭貨(寛永通宝)などが出土している。

まとめ 調査対象範囲は、近世～現代の地形改変の影響を大きく受けており、第1次調査の出土遺物に相当する年代の遺構は確認されなかった。調査の結果からは、砂丘の形成→砂丘間低地堆積層の形成(出土遺物からVII層が8世紀代以降の堆積)→17世紀代には新田開発の開始という経過が推定される。なお、古代の土器については、(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団の春日真実氏にご教示いただいた。

小丸山東遺跡第2次調査については、本書の記述をもって正式報告とする。(遠藤恭雄)

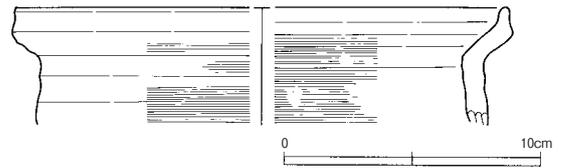
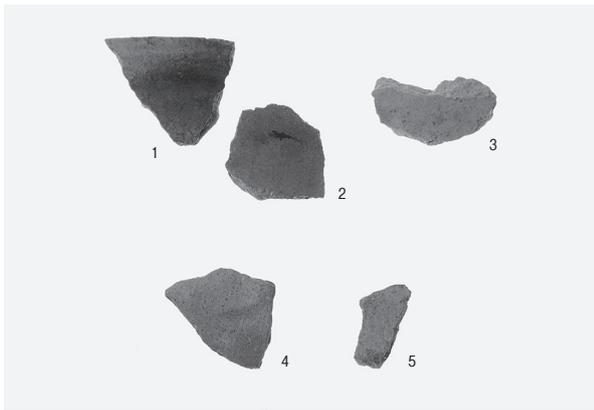
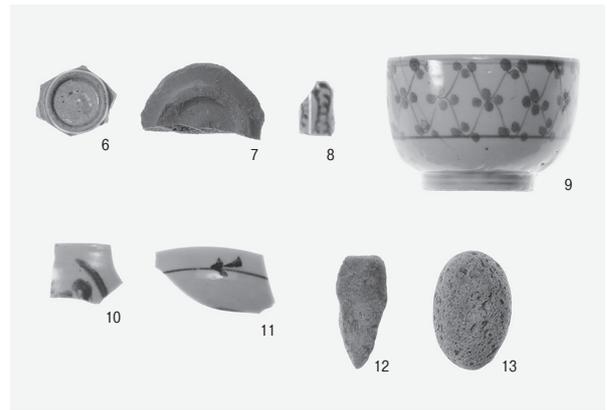


図6 遺物実測図(1/3)



古代土器(1/3)



陶磁器・土製品・石製品(1/3)

表1 小丸山東遺跡 古代土器観察表

報告書 No.	出土位置		層位	種別	器種	色調	法量(cm)			胎土 含有物	遺存率 口縁部	焼成	備考
	遺構名	グリッド					口径	底径	器高				
1		2T(3C-13)	XI	土師器	長甕	灰黄褐(10YR5/2)	19.3	-	-	石英・長石	3/36	酸化	内外面:ロクロナデ・カキメ 2と同一個体か
2		2T(3C-13)	XI	土師器	長甕	灰黄褐(10YR5/2)	-	-	-	石英・長石		酸化	内外面:ロクロナデ 1と同一個体か
3		2T(3C-13)	XI	土師器	長甕	にぶい黄橙(10YR7/3)	-	-	-	石英・長石		酸化	外面:カキメ 内面:ロクロナデ
4		1C-22	VII	土師器	甕	灰黄(2.5Y7/2)	-	-	-	石英・長石・赤色微粒子		酸化	非ロクロ 外面:縦位ハケメ 5と同一個体か
5		1C-22	VII	土師器	甕	灰黄(2.5Y7/2)	-	-	-	石英・長石・赤色微粒子		酸化	外面:ハケメ 4と同一個体か

表2 小丸山東遺跡 陶磁器観察表

報告書 No.	出土位置		層位	種別	器種	産地	法量(cm)			年代	遺存率		備考
	遺構名	グリッド					口径	底径	器高		口縁部	底部	
6	SK1	3B-25		陶器	小杯	不明(瀬戸?)	-	2.8	-	18C以降		36/36	内外面灰釉 見込貫入
7	SK1	3B-25		染付	皿	肥前	-	3.6	-	16C末～17C		18/36	底部外面無釉
8	SK1	3B-25		染付	御神酒德利	肥前	1.8	-	-	18C末～19C	1/36		外面施文 蛸唐草文
9		3C-11	I	染付	椀	肥前	10.0	-	6.0	17C後半	13/36	16/36	外面施文 一重網目文
10		3C-11	I	染付	椀	肥前	-	-	-	17C末～18C前半	3/36		外面施文 漆接ぎ痕
11		3C-11	I	染付	皿	肥前	13.6	-	-	17C後半	5/36		内外面施文

表3 小丸山東遺跡 土製品・石製品観察表

報告書 No.	出土位置		層位	種別	色調	法量(mm)			胎土 含有物	遺存率	重量(g)	備考
	遺構名	グリッド				長さ	幅	厚さ				
12		2C-11	I	太形管状土錘	にぶい橙(7.5YR7/4)	長さ:37.0	幅:120	孔径:120	長石・赤色微粒子	1/10	15.0	
13		3B-15	I	軽石製石製品		55.5	36.0	32.0			34.0	

(2) 大沢谷内遺跡 第21次調査 (2013002)

所在地 新潟市秋葉区横川浜17-1外
 調査の原因 国道403号線改良工事 (公共事業)
 調査期間 平成25年4月15日～9月19日
 調査面積 2,130㎡
 調査担当 相田泰臣
 調査員 金田拓也
 佐藤 俊 (株ノガミ)
 処 置 記録保存

調査に至る経緯 新潟市東部地域土木事務所から国道403号線改良工事に伴う発掘調査が依頼され、平成25年4月15日～9月19日にかけて本発掘調査が行われた。

第21次調査は8区について調査を行った(図1)。8区は403号本線への北側乗り入れ部分にあたり、2011年度の第19次調査時に、南端の一部を調査している。

位置と環境 大沢谷内遺跡は、新潟市の南東端、新津丘陵と信濃川に挟まれた沖積地上に立地する。縄文時代から室町時代にかけて継続的に営まれ、東西約600m、南北約900mと広大な範囲に及ぶ遺跡である。

平成23年度に実施した9区の調査では畑跡が確認されている。8区では明確な畑跡が確認されない一方、建物や井戸などが多く見つかった。遺構確認面の標高は約3.5mで、畑跡が見つかった9区南側よりも0.5～1.0m高く、微高地を利用して居住域が形成されたと考えられる。

検出遺構 奈良・平安時代と鎌倉時代の遺構・遺物が確認された。今回の調査で見つかった遺構は、掘立柱建物9棟、井戸52基、溝196条、土坑110基、性格不明遺構105基などで、井戸の大半は遺構の中の堆積土の違いなどから鎌倉時代のものと考えられる。

奈良・平安時代の遺構は、掘立柱建物が5棟見つかった。建物のなかには周りに雨落ち溝を有し、柱の掘り方が方形の掘立柱建物も存在する。他では、幅約2.4m・深さ約0.8mと比較的大きな溝や、方形の水溜状遺構などが確認された。井戸は、井戸側に専用の曲物を利用したものや、舟を転用したものがある。後者では、井戸底で完形の須恵器の椀2個体が重なった状態で出土した。

出土遺物 土器の他、土製品、石器・石製品、木製品、金属製品、骨角製品、アスファルト、種子が出土している。遺物量は、コンテナケースで207箱である。出土土器から、奈良・平安時代が8世紀後半から10世紀前半を中心とする時期、鎌倉時代が12世紀後半から14世紀紀頃と考えられる。奈良・平安時代では、花卉文様をもつ円面硯、石帯、施釉陶器(灰釉陶器・緑釉陶器・奈良三彩)といった希少品のほか、「寺」や「田」などの墨書土器、ほぼ完全な形で出土した鍬、斎串などのまじない用と考



図1 調査位置図 (1/10,000)



8区全景 (東から)



平安時代の掘立柱建物跡 (南から)

えられる木製品などが出土した。

鎌倉時代では、かわらけや青磁、白磁、珠洲焼のほか、井戸を中心に櫛や漆器、下駄などの木製品が多く出土した。また、市内で初例となる骨角製の筭も出土した。

なお、平安時代、鎌倉時代ともアスファルト塊が遺構内外から定量出土した。

まとめ 出土遺物などから、奈良・平安・鎌倉時代を通じて有力な集落であったと判断される。農耕やアスファルト資源、木器製作などを基盤とし、内水面交通を利用して繁栄した集落の姿がうかがえる。平成26年度に報告書刊行予定である。(相田泰臣)

(3) 峰岡上町遺跡 第3次調査 (2013003)

所在地 新潟市西蒲区峰岡字上町・御手洗山
調査の原因 一般国道460号道路改良工事（公共事業）
調査期間 平成25年4月22日～10月7日
調査面積 2,080㎡
調査担当 前山精明
調査員 龍田優子 牧野耕作
処置 記録保存

調査に至る経緯 新潟市西部地域土木事務所から平成25年3月5日付で本発掘調査の依頼文書が提出された。調査初年度にあたる本年は、これをうけて遺跡東部の丘陵部（1区）と低地（2区）で本発掘調査を行った。

位置と環境 角田山の東南麓に形成された低丘陵の裾部（8～10m）とこれに接した低地（7m）にかけて立地する遺跡である。低地の2区では縄文時代の埋没谷を確認した。この谷は、古代の段階で埋積化が進み、沼地に変貌したことが自然科学分析を通じ明らかになっている。

検出遺構 1区から奈良・平安時代の遺構を確認した。台地の頂部から緩斜面に構築された3棟の掘立柱建物、緩斜面に点在する6基の焼土坑、調査区全域を覆う1,300条ほどの畝間痕が主なものである。掘立柱建物は、いずれも梁間2間型にあたる。焼土坑の平面形は円形・楕円形・方形を呈し、クリを主とした多量の炭化材を伴う。畝間痕は地山に残る粘質部から見出したものである。掘立柱建物との重複関係からみて、古代集落の形成期間を通じ存在した可能性が高い遺構と考えられる。

検出遺物 1区出土の古代遺物は、コンテナケースで50箱あまりを数え、8世紀半ばから9世紀半ばまでの土器が大半を占める。須恵器無台杯の焼成不良品や権状錘と有溝石錘の未成品の出土が目される。1区では、このほか近世三根山藩に関連する陶磁器が20箱出土した。

2区の調査は遺物包含層の範囲確認に留まるが、台地の裾部付近から9世紀前半の土器、地表面下3mほどの谷底部から縄文時代中期～後期の土器と石器が出土した。出土量は10箱である。縄文時代の遺物包含層には樹枝や種実が良好に保存されており、今後の調査によって木製品の発見が期待できる。

まとめ 角田山の周辺でこれまで行われた古代遺跡の調査はきわめて限られる。今回の調査で古代の遺構と遺物が見いだされた峰岡上町遺跡は、丘陵上で確認された初の集落跡となるものである。遺構・遺物のあり方や古環境復元に基づけば、この集落では畑作に基盤を置きながら、漁撈や森林資源の利用、土器製作を行っていたと考えられる。沖積地の古代遺跡との関連性を視野に入れた本遺跡の位置付けが今後の課題となる。（前山精明）

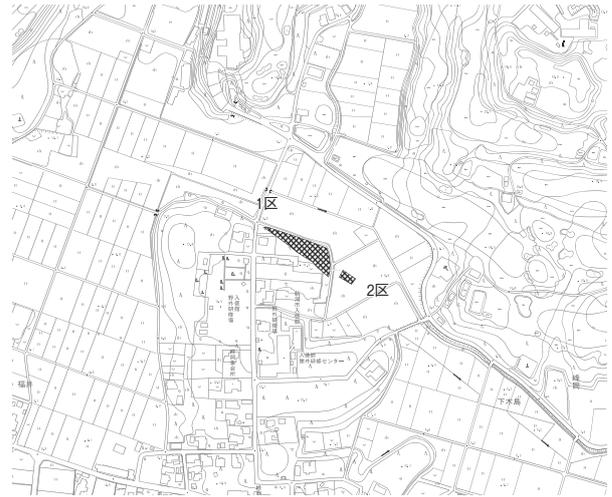
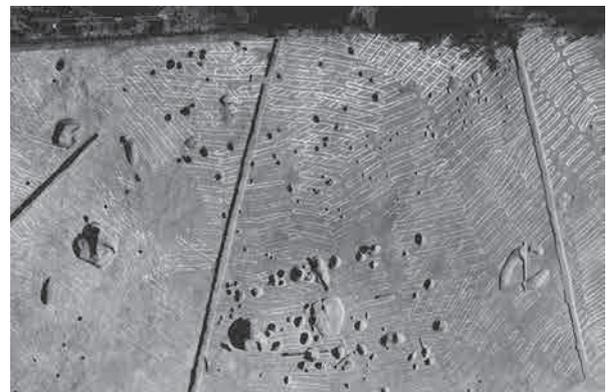


図1 調査位置図 (1/10,000)



北上空から見た調査地



掘立柱建物と畝間痕



2区埋没谷

(4) 細池寺道上遺跡 第41次調査 (2013004)

所在地 新潟市秋葉区東金沢字稲葉567-1外

調査の原因 両新地区圃場整備事業 (公共事業)

調査期間 平成25年7月25日～12月27日

調査面積 2814.55㎡

調査担当 立木宏明

調査員 中川晃子・不破野希春 (株吉田建設)

処置 記録保存

調査に至る経緯 新潟県地域振興局から平成25年4月26日付で本発掘調査の依頼文書が提出され、これを受けて圃場工事により保護層が確保できない範囲 (1区2498.58㎡) と幅2mの管理設区域とこれに接したユニット埋設場所 (2区212.30㎡・3区103.67㎡) を対象とした調査を、平成25年7月25日付で報告し、本発掘調査を実施した。

位置と環境 細池寺道上遺跡は、新津丘陵の東側を流れる能代川と阿賀野川に挟まれた沖積地に立地する古代・中世の遺跡である。遺跡の広がりには南北1.7km、東西1.2kmにおよぶ。磐越自動車道の建設に伴い新潟県教育委員会が本発掘調査を行った細池寺道上遺跡の西に隣接し現地表面標高は8mである。

これまでも複数回の発掘調査が行われており、古代・中世の遺物や遺構が確認されている〔立木・相澤 (高野) ほか2014〕。

検出遺構 1区から古代・中世、2・3区から古代を中心とする遺構を確認した。

基本層序は、I～V層に分けられ、IV層が古代・中世の遺物包含層、V層上面が遺構確認面となる。各区ともに地表下0.5～0.8mに遺構確認面がある。

検出された遺構は1区では調査区南側に古代の土坑や溝が分布し、北側には中世の掘立柱建物・井戸・溝・水田跡などが検出された。掘立柱建物には廂付建物が確認されている。水田跡は7面検出した。長方形から不整形の平面形状を持ち、長軸20m、短軸10m前後で0.3m程度掘りこまれている「掘込田」である。底面は耕作痕が顕著に認められる。水田跡には溝が付属し排水路として利用されている。それぞれの水田跡は複数回の耕作がおこなわれている。2・3区では古代の溝や性格不明遺構、中世以降と考えられる水田跡が確認されている。

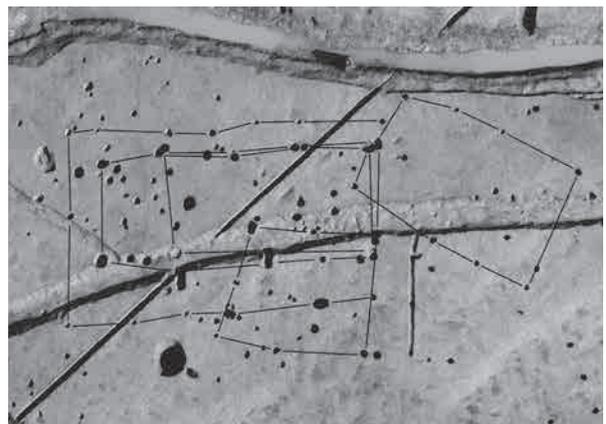
出土遺物 今回の本発掘調査では、コンテナケース45箱を数え、大半は1区の遺物で2・3区は少ない。古代では9世紀代の須恵器・土師器の食膳具が多く出土した。中世では14世紀代の珠洲焼大甕・壺・片口鉢が出土した。その他に鉄鏝などの鉄製品や砥石・磨石などの石製品が出土した。



図1 調査位置図 (1/10,000)



1区調査区全景 (北から)



1区掘立柱建物 (南西から)

まとめ 1区では平安時代の集落跡の一部が確認された。中世の掘立柱建物群と隣接する溝でつながる水田跡の検出は貴重な例である。2・3区については古代・中世の遺跡の広がりが広範囲にわたることが確認された。報告書は平成27年度以降に刊行予定である。

(立木宏明)

(5) 下新田遺跡 第8・9次調査
(2013005・2013006)

所在地 新潟市西蒲区道上字下新田5244外
調査の原因 道上地区県営圃場整備事業（公共事業）
調査期間 平成25年8月6日～12月18日
調査面積 1,875㎡（2013005）、120㎡（2013006）
調査担当 龍田優子
調査員 牧野耕作
長澤展生（株シン技術コンサル）
処置 記録保存

調査に至る経緯 圃場整備事業に伴い平成24年度に確認調査を実施した（第7次・2012212）。その結果を受けて、新潟県地域振興局より『文化財保護法』第94条の通知が提出された（平成25年2月25日付）ため、着手報告を提出し（平成25年7月30日付）、本発掘調査を実施した（第8次、1～3区）。その後、調査中に1区隣接地で同事業に伴う『文化財保護法』第94条の通知が新たに提出されたため（平成25年10月8日付）、着手報告を提出し（平成25年11月11日付）、連続して本発掘調査を実施した（第9次、4・5区）。さらに、本発掘調査対象外での工事立会中に完形の土師器長甕2個体が合わせ口の土器棺状態で検出されたため、約40㎡について急遽工事立会から確認調査に切り替えた（第10次・2013221）。

位置と環境 中ノ口川左岸の自然堤防上に立地する。北西から南東方向に細長く広がる遺跡の現標高は約0.4～1.0mで北東に向かってわずかに傾斜している。遺物が出土する深さは現況とは異なり北西側では浅く、南東側で深い。

検出遺構 遺存状態は良好で平成24年度調査（第6次）と同様に、遺構確認面が上・中・下層に分かれる状況が全ての調査区で確認された。奈良時代の遺物が主体的に出土する下層からは井戸・柱穴・溝状遺構などが検出された。遺跡の北西側ほど中層で検出される遺構が多く、出土する土器の時期も新しい。4区中層の浅い土坑（SK4）からは土師器無台椀が置かれたような状態で多数出土した。

また、全ての調査区を覆うように畑や水田が上層壁面で明瞭に確認された。特に、1・3区では南北方向にのびる水田の大畦畔が数条検出された。

出土遺物 土器類を中心にコンテナケース約93箱出土した。調査区によって時期的に異なるが、8世紀前半を主体に9世紀後半から10世紀初頭の土器が出土し、残存状態は良好である。なお、工事立会では灰釉陶器や中世土師器がわずかであるが初めて出土した。

まとめ 主体を占める奈良時代の遺物や検出された様々な遺構は、調査事例の少ない当地域の様相を考える



図1 調査位置図（1/10,000）



調査区全景（東から）



1区水田跡（東から）



土器棺検出状況（西から）

上で貴重な資料である。今回の調査では、徐々に北西側へ移動しながら一定期間生活をしていた場所と考える。

なお、第6～10次調査まで含む報告書を平成27年度に刊行する予定である。（龍田優子）

3 整理作業の概要

平成25年度に文化財センターが実施した発掘調査整理作業の一覧を調査番号順に表4に示した。整理作業のうち、主要なものについて以下に記述する。

(1) 試掘・確認調査、工事立会、本発掘調査の再整理事業

試掘・確認調査、工事立会に伴う遺物や報告書は刊行したが収蔵のための整理作業が未了の遺物、新潟県教育委員会から譲与を受けた資料等について、所在を把握し効率的な収蔵を行うことでその後の活用を利用しやすくするために再整理作業を行った。

試掘・確認調査、工事立会は歴史文化課で実施し、出土遺物については文化財センターで水洗・注記・収蔵作業を行っている。報告書刊行済の本発掘調査に関する再整理は平成24年度に刊行した四十石遺跡と平成22年度に刊行した三王山遺跡について収蔵のための作業を行った。

平成24年度より実施している馬場屋敷遺跡等再整理は確認調査遺物及び興野遺跡遺構・遺物デジタルトレースについて外部委託を行った。また、馬場屋敷遺跡下層出土の木製品について実測作業を進めた。平成25年8月には、これまで存在が知られていなかった馬場屋敷遺跡下層遺物分布図等の現場図面が当時の調査員から返却され、これまで不明であった遺物分布状況の一部が明らかになった。(相澤裕子)

(2) 沖ノ羽遺跡第18次・19次・22次・24次調査の整理作業

整理の流れ 県営満日地区圃場整備事業(秋葉区)に伴う沖ノ羽遺跡本発掘調査について第18次および第19次調査1～4・7区を『沖ノ羽遺跡V』、第19次調査5・6区および第22・24次調査を『沖ノ羽遺跡VI』として刊

行する予定で整理作業を行った。

『沖ノ羽遺跡V』報告書について平成25年度は全体の最終校正を行い、平成26年2月に印刷・刊行した。本報告では古墳時代から中世までの集落が断続的に営まれていたことが確認された。主体となるのは古代で、9世紀後半には仏教関係の遺物が多く出土しており、「村落内寺院」を持つ有力者層の集落であったと推定される。

報告書刊行後、遺物・図面等を収蔵するための整理作業を行った。

『沖ノ羽遺跡VI』報告書については平成24年度で土器の集計・接合・実測を終了し、平成25年4月からは石製品・木製品等の実測を行った。これと並行して業者委託による遺物のデジタルトレースを進めた。遺物の実測は6月で概ね終了し、その後写真撮影を行った。遺物のデジタル図化と写真撮影が進んだ段階で図版・写真図版の作成を開始した。出土遺物のうち第24次調査でまとまって出土した鍛冶関連遺物については詳細な検討が必要と判断し、穴澤義功氏の指導の下、整理・分類・実測までを行った。遺構図面は平成24年度までに第19・22次調査の整理が終了していたため、主に第24次調査の整理を進めた。遺構断面図のデジタル図化を行い、個別の遺構平面図と合わせて遺構図版を作成した。第24次調査についてはこの他に遺構写真図版の作成も行った。

整理作業の成果 第24次調査の鍛冶関連遺物は、精錬鍛冶から鍛錬鍛冶の各段階に関わる資料であることがわかった。鍛冶関連遺物が集中する地区では中世の鍛冶工房と推定される6m×3mの掘立柱建物が検出されており、この工房内で鍛冶工程の一貫した作業が行われていたことが推定される。今後は図版類の編集を引き続き行い、本文の執筆を進めていく。『沖ノ羽遺跡VI』報告書は平成27年度に刊行の予定である。(澤野慶子)

表4 平成25年度整理作業一覧

遺跡名・事業名	調査回数(次)	調査番号	整理原因	整理担当	主な作業内容
峰岡上町遺跡	3	2013003	本発掘調査に伴う整理	前山精明	基礎整理
小丸山東遺跡	2	2013001	本発掘調査に伴う整理	遠藤恭雄	基礎整理・遺物実測
下新田遺跡	6・8・9	2012008・2013005・2013006	本発掘調査に伴う整理	龍田優子・牧野耕作・潮田憲幸 長澤展生(株シン技術コンサル)	基礎整理・遺物実測・写真整理・報告書作成
日水遺跡	6	2012007	本発掘調査に伴う整理	立木宏明	報告書作成・印刷刊行
峰岡城山遺跡	2	2012002	本発掘調査に伴う整理	立木宏明	報告書作成・印刷刊行
大沢谷内遺跡	19・20 21	2011006・2012001 2013002	本発掘調査に伴う整理	相田泰臣・金田拓也 佐藤 俊(株ノガミ)	基礎整理・遺物実測
四十石遺跡	2	2008009	本発掘調査に伴う整理	相澤裕子	収蔵作業・台帳作成
三王山遺跡	4・7	2007010・2008004	本発掘調査に伴う整理	相澤裕子	収蔵作業・台帳作成
細池寺道上遺跡	25・26・27 30・31・41	2007005・2008006・2010003 2011005・2012006・2013004	本発掘調査に伴う整理	立木宏明・前山精明・相澤裕子 潮田憲幸・澤野慶子・牧野耕作 中川晃子・不破野希春(株吉田建設)	基礎整理・遺物実測 報告書作成・印刷刊行・収蔵作業
西江浦遺跡	3	2012005	本発掘調査に伴う整理	相澤裕子	収蔵作業・台帳作成
古津八幡山遺跡	15・16・17 18・19	2006112・2010207・2011153 2012217・2013147	足跡整備に伴う整理	相田泰臣・渡邊朋和・八藤後智人・金田拓也	基礎整理・遺物実測・写真整理 報告書作成・印刷刊行・収蔵作業
沖ノ羽遺跡	18・19 22・24	2005002・2006005 2007004・2008002	本発掘調査に伴う整理	遠藤恭雄・立木宏明・澤野慶子	遺物実測・報告書作成 印刷刊行・収蔵作業・台帳作成
中谷内遺跡	15・16	2011002・2012004	本発掘調査に伴う整理	遠藤恭雄・立木宏明・澤野慶子	報告書作成
内野遺跡	8・9	2011003・2012003	再報告に伴う整理	相澤裕子・渡邊朋和	再整理
馬場屋敷遺跡ほか	1・2・3	1983006ほか	再報告に伴う整理	相澤裕子・渡邊朋和	再整理
試掘調査・確認調査・ 工事立会・本発掘調査 再整理事業	—	—	収蔵作業に伴う整理	相澤裕子・渡邊朋和	収蔵作業・台帳作成

4 資料の収蔵・保管

(1) 収蔵方針

文化財センターでは、新潟市内で発掘調査によって出土した遺物や、写真・図面などの記録類を一括集中管理している。一括集中管理することによって、木簡などの木製品や金属製品などの脆弱遺物、図面・写真などの記録類を、適切な温度・湿度で保管することが可能となっている。また、出土した土器や石器などの遺物も分散することなく、まとめて収蔵している。これにより、文化財センターが行う展示などの活用だけでなく、資料閲覧や貸出などの対応についても文化財センターで一括して対応することが可能となっている。

なお、発掘調査によらない考古資料や個人寄贈・寄託資料に関しては、各区の博物館や資料館などで収蔵・保管が行われている。このことにより、博物館などで発掘調査資料を展示する場合には文化財センターから貸し出し、文化財センターで個人寄贈資料などを展示する場合には博物館などから借用する仕組みとなっている。

(2) 収蔵・保管施設

収蔵・保管施設には、埋蔵文化財収蔵庫・特別収蔵庫1（木製品）・2（金属製品）・資料収蔵庫・図書室・民俗資料収蔵庫がある。民俗資料は(6)に記載した。

埋蔵文化財収蔵庫 土器や石器などの比較的周辺環境で劣化のしづらい資料を収蔵している。平成26年1月末時点で11,117箱収蔵している。

特別収蔵庫1・2 保存処理が完了した木製製品や金属製品などを収蔵している。平成26年10月末時点で特別収蔵庫1に566箱（木製品）、特別収蔵庫2に181箱（金属製品95箱、骨・骨製品86箱）収蔵している。

資料収蔵庫 発掘調査の図面や写真フィルム・CD・DVDなどの記録類を収蔵している。

図書室 新潟市の他、全国で刊行された発掘調査報告等の考古学・歴史関係図書を中心に収蔵保管している。平成26年3月末時点で38,054冊登録されている。

(3) 発掘調査番号

遺物や調査記録類をまとめるために、新潟市内における全ての発掘調査に対し調査番号を付けている。

(4) 再整理作業

文化財センター開館以前の資料について、平成25年度も継続して作業を継続中である。

(5) 収蔵資料のデジタル化及びデータベース化

保存と活用のために、遺構に関しては遺構台帳を作成し、図面や写真等の記録類についても紙やフィルムなどのアナログデータのデジタル化を実施している。

発掘調査図面は、殆どが業者に委託したデジタルデータ（CADデータ）が存在する。

写真に関しては、発掘調査終了後速やかにデジタル化を行っており、データ形式も汎用性を考えてtiffデータとしている。

発掘調査報告書に関しては、印刷業者に報告書を入稿する前もしくはその後にpdfデータを作成している。

収蔵図書に関しても書誌データ（CSV形式）を継続して登録している。

(6) 民俗資料等

民俗資料収蔵庫には、農具・漁労具・生活用具等の民具を中心に収蔵している。非常勤職員を雇用し、整理作業や台帳作成を行っている。平成25年度時点で、約3,000件が収蔵されている。

また、文化財センターに隣接する旧木場小学校校舎は、「大形民具収蔵庫」として利用され、敷地・建物を文化財センターが、収蔵品の民俗資料は歴史文化課・新潟市歴史博物館が管理している。

発掘調査で出土する遺物、特に木製品等は、破片で出土することがほとんどであり、具体的な器種を特定することが困難な場合がある。そのような時に、民俗資料が参考になる場合がある。また、実際の展示においても、民俗資料を活用することで、入館者の理解の助けになると考えられる。

(7) 埋蔵文化財情報管理システム

埋蔵文化財の管理と活用、デジタル化した記録類のデータ管理を目的として、『埋蔵文化財情報管理システム』を活用している。遺跡管理のための地理情報管理システム（GIS）と発掘調査記録や収蔵品管理のためのデータベースの機能を併せ持ったシステムである。

平成25年度に、新潟市役所の統合型GISの契約終了に伴うシステムの変更が決まった。それに伴いサブシステムとして運用している『埋蔵文化財情報管理システム』についても、システムを継続するか、改めて再構築するかの問題が発生している。利便性や不具合等を考慮して検討し、再構築する方向で準備を進めている。（金田拓也）



民俗資料収蔵庫

5 資料の公開・活用

(1) 展 示

新潟市文化財センター条例の設置目的にある「埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、及びこれらの活用を図る」ための主な事業の一つとして埋蔵文化財・有形民俗文化財の展示を行っている。

文化財センターの展示は以下のような方針で構成されている。文化財センターには市内から出土した埋蔵文化財が大量にあり、これからも毎年行う発掘調査で新資料が増えるため、博物館のようにストーリー性を持った固定的な展示ではなく、展示品・グラフィックパネル共に自ら容易に変更できるようにする。そして、出土品をできるだけ多く展示し、出土品そのもので何かを感じ取ってもらうように展示方法を工夫する。ともすれば、展示品ではなく展示解説に目が奪われがちなため展示解説は極力少なくし、来館者には職員やボランティアが展示解説をすることで補っている。展示は、展示室1・2、エントランスホールで行っている。

展示室1 導入展示室兼、展示室2の前室としての機能を有している。「歴史を伝える出土品の世界」と題して、市内で出土した縄文時代から近世の土器・陶磁器、縄文時代から近世の木製品を壁一面に展示している。また、緒立遺跡出土の網代や御井戸遺跡の木柱などの大型

木製品、市内出土の木簡レプリカを展示している。平成25年度には、「利器」の展示スペースを「近世新潟町跡」出土の陶磁器に変更した。

展示室2 大きく3つの展示に分かれている。「新潟市文化財センターの活動」では、文化財センターが行っている発掘調査現場を再現した西区四十石遺跡のジオラマと、発掘調査・整理作業で使用する器材を展示している。また、4面のウォールケースでは「遺跡が語る新潟市の歴史」と題して旧石器時代から江戸時代までの通史展示を行っている。一般になじみの薄い原始・古代・中世・近世等とせず、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、飛鳥・奈良・平安時代、鎌倉・南北町・室町時代、安土・桃山・江戸時代と表記している。中央は企画展示コーナーで、「交流・交じり合う文化」と題した企画展を行った。

エントランス エントランスでは、大形品の展示のほか、速報性のある出土品の展示を行っている。平成25年度には、平成24年度に本発掘調査を行った日水遺跡と峰岡城山遺跡の展示を行った。また、寄贈を受けた海揚がりの縄文土器深鉢の展示を行い、テレビ報道されたこともあり多くの見学者があった。その後、この展示によってさらに海揚がりの珠洲焼2点が寄贈されることとなり、エントランスに露出展示することとなった。

文化財センターの開館から3年が経過し、問題点も

多々見られる。例えば、エントランスホールから展示室へ入る自動扉が壁と同色のためわかりにくく、展示室に気づかない来館者が少なくないということである。改善するべく、展示室入口の表示を大きくしたり、職員おすすめの展示を紹介する掲示を行ったりしてはいるが、根本的な解決には至っておらず、来館者に直接声をかけて展示室への入場を促している現状である。(今井さやか)

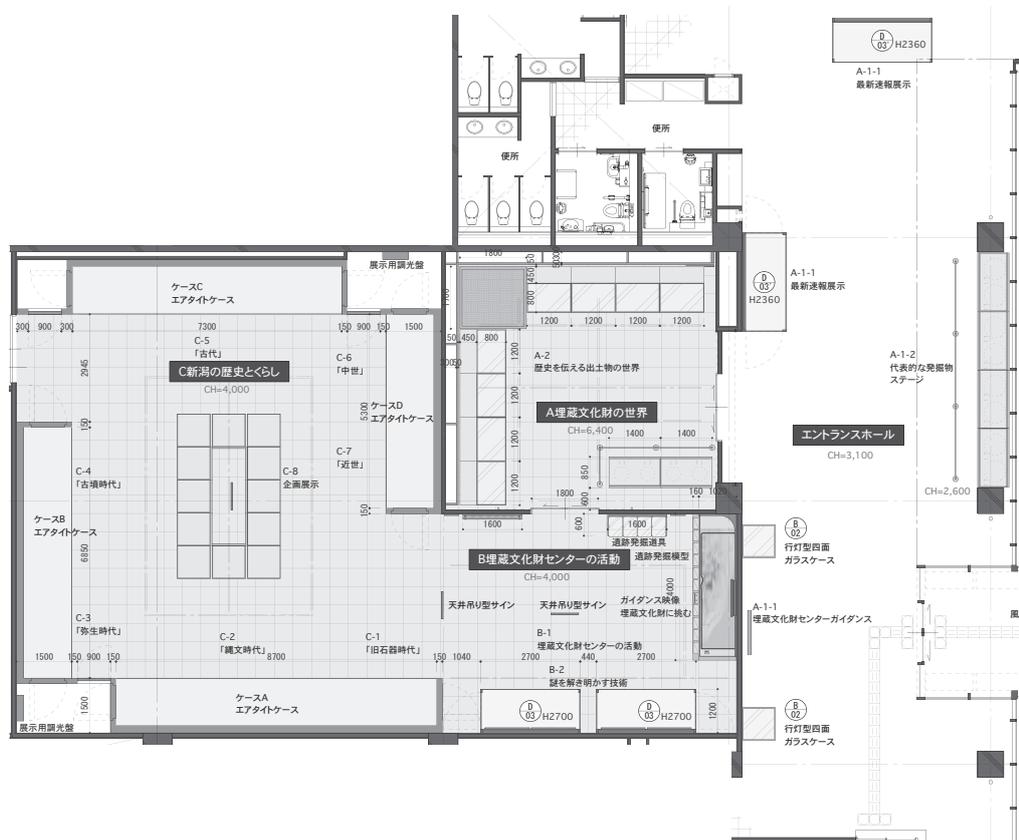


図2 エントランス・展示室平面図

6 教育普及活動

(1) 公開講座

文化財は歴史的・文化的資産としてだけでなく、地域の成り立ちなどを知る地域資産や教育的資産でもある。新潟市ではこれらの資産を普及事業として積極的に公開・活用し、地域の歴史や文化に対する意識や愛着を育んでいきたいと考えている。

本市ではこれまでも遺跡発掘調査速報会や発掘調査現地説明会、広聴課の「動く市政教室」での遺跡めぐりの開催などを行ってきた。平成23年度の文化財センターの開館により、これまでの事業に加えて募集型の講座やイベントの開催、学校などの団体利用などが可能となった。以下、平成25年度の概要について記す。

講座 考古学と民俗学関連の講座を行った。考古学関連の講座では「はじまり」をテーマとし、一つの事象を二人の講師が違う切り口で解説することとした。民俗学講座については、文化財センターの民俗資料の中から、黒埼に關係の深いテーマを2つ取り上げた。

また観察再現講座とし、ものを観察しその作り方をじっくり学ぶ講座を開催した。縄文土器を観察して再現する講座では、文化財センターのボランティアが講師となって参加者に教えた。

体験イベント 子ども向け歴史体験「縄文土器づくり」、「文化財センター仕事体験」を夏休みに開催した。

平成25年度の試みとしては、地域の方々との交流を目的とした「旧武田家住宅で民具とお茶を楽しむ会」を開

表5 平成25年度公開講座一覧

考古学講座			
年月日	内容	講師	人数
2013/7/7 (日)	新潟市の考古学の歴史1 —江戸から昭和40年代	関 雅之 (新潟県考古学協会会員)	23
	新潟市の考古学の歴史2 —考古学者上原甲子郎さんの業績	酒井和男	
2013/10/20 (日)	我が国における農耕の起源 —現在の日本と韓国の食文化の違いから—	渡邊明和	20
	新潟県における古墳時代の稲作関連遺跡と資料	相田泰臣	
2013/11/16 (土)	縄文土器と調理	寺崎裕助	20
	森と水辺の縄文食	前山精明	
2014/1/19 (日)	馬場屋敷遺跡下層の再整理	相澤裕子	12
	保存処理のしくみ	今井さやか	
2014/3/16 (日)	新潟市の旧石器時代 —新潟市域最初の住人—	立木宏明	32
	新潟市のはじまり —土器出現期の頃を中心に—	龍田優子	
観察再現講座			
年月日	内容	講師	人数
2013/6/8 (土)	秋葉遺跡の縄文土器(王冠型土器)をつくる 【大人向け】3週連続 (6/8、6/15、6/22)	斉藤正三・佐藤英世・ 今井浩男 (まいぶんポートボランティア)	7
2013/10/6 (日)	アスファルト精製を再現する	本間敏則	10
2013/11/23 (土)	大沢遺跡の縄文土器(火箱型土器)をつくる 【大人向け】5週連続 (11/23、11/30、12/7、12/14、12/21)	斉藤正三・佐藤英世・ 今井浩男 (まいぶんポートボランティア)	11
民俗講座・体験講座			
年月日	内容	講師	人数
2013/5/11 (土)	新潟の木造和舟	岩野邦康 (新潟市新津鉄道資料館)	12
2013/9/7 (土)	藁の民具と低湿地文化	五十嵐稔 (新潟県民具学会会長)	16
2013/10/13 (日)	旧武田家住宅で民具とお茶を楽しむ会	江戸千家新潟不白会	61
夏休み子ども歴史体験			
年月日	内容	講師	人数
2013/7/28 (日)	文化財センター仕事体験 君も考古学者	今井さやか	12
2013/8/3 (土)	縄文土器を作ってみよう ～高さ15cmの土器づくり	今井さやか、 まいぶんポートボランティア	39
2013/8/21 (水)	黒埼っ子限定 縄文土器づくり	今井さやか	9
2013/8/24 (土)	縄文土器を作ってみよう ～高さ15cmの土器づくり	今井さやか	9
新潟市遺跡発掘調査速報会			
年月日	内容	講師	人数
2014/3/2 (日)	講演 新潟市東区牡丹山諏訪神社古墳めぐって	橋本博文 (新潟大学教授)	303
	報告 峰岡上町遺跡 —縄文の谷と丘陵上の奈良・平安時代集落—	前山精明	
	報告 下新田遺跡 —地中深く眠る奈良・平安時代のムラ—	龍田優子	
	報告 細池寺道上遺跡 —平安から室町時代の水田跡と人々の暮らし—	立木宏明	
	報告 大沢谷内遺跡 —平安・鎌倉時代における有力者の集落—	相田泰臣	

表6 平成25年度職員派遣・出前講座一覧

年月日	内容	会場	依頼者	派遣職員名
通年	「阿武隈川流域における古墳時代首長層の動向把握のための基礎的研究」 研究協力者	福島県立博物館ほか	福島大学行政政策学類	金田拓也
2013/5/23 (木)	石川県史跡整備市町協議会総会・文化財研修	小松市栗津温泉 おびし荘	石川県史跡整備市町協議会	渡邊明和
2013/6/4 (火)	弥生の丘展示館について	新津中央ロータリークラブ例会場	新津中央ロータリークラブ	寺崎裕助
2013/6/8 (土)	古津八幡山古墳の遺跡見学	史跡古津八幡山 弥生の丘展示館	新潟県考古学会	渡邊明和
2013/6/9 (日)	新潟県考古学会調査報告 「古津八幡山古墳：墳丘の特徴的な盛土工法が判明」	万代市民会館	新潟県考古学会	相田泰臣
2013/8/1 (木)	夏休み子ども体験教室「勾玉づくり」	小針青山公民館	小針青山公民館	今井さやか
2013/8/1 (木)	縄文体験実習	農と縄文の体験実習館	津南町教育委員会	磯部保衛
2013/8/2 (金)		小さな美術館季	大江山縄文市実行委員会	今井さやか
2013/8/8 (木)	縄文文化の話と土偶製作体験	新潟県庁	新潟県教育庁文化行政課	今井さやか
2013/8/12 (月)	市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修 事例報告「校外学習の受け入れ」	新潟県庁	新潟県教育庁文化行政課	今井さやか
2013/9/19 (木)	秋葉区公民館講座 「史跡古津八幡山遺跡—2,000年の時を越え、よみがえる弥生の丘」	史跡古津八幡山 弥生の丘展示館	新津地区公民館	渡邊明和
2013/10/14 (月・祝)	大江山縄文市	大江山公園	大江山地区コミュニティ協議会	廣野耕造 今井さやか
2013/11/9 (土)	越後国確定1300年遺跡ウォーキング	古津八幡山遺跡ほか	新潟県教育庁文化行政課	渡邊明和 相澤裕子
2014/1/15 (水)	講演 新潟市の遺跡とその活用について	新潟県健康づくり・ スポーツ医学センター	新潟市小学校教育研究協議会	今井さやか
2014/1/21 (火)	3学年社会科授業「昔のくらし」	立仏小学校	立仏小学校	本間敏則 酒井和男
2014/1/30 (木)	3学年社会科授業「昔の道具の用途や特徴」	真砂小学校	真砂小学校	今井さやか 酒井和男
2014/2/1 (土)	キッズクラブ「勾玉づくり」	西川地区公民館	西川地区公民館	今井さやか
2014/2/14 (金)	3学年社会科授業「昔のくらし」	大形小学校	大形小学校	本間敏則 酒井和男
2014/3/9 (日)	講演「縄文時代の日本海交流—糸魚川市六反田南遺跡の事例から」	新潟県埋蔵文化財センター	新潟県教育庁文化行政課	寺崎裕助

表7 平成25年度旧武田家住宅利用状況

年月日	利用者名	目的
2013/7/7 (日)	宮本あきら (黒埼とんと)	語り部の会

表8 平成25年度体験利用人数

個人													
メニュー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
拓本体験	5	0	2	3	10	0	0	2	2	0	3	2	29
勾玉づくり	42	58	14	41	129	36	10	25	27	8	18	53	461
勾玉づくり (スピード)	2	2	0	0	3	5	0	3	0	0	2	3	20
鑄造体験	13	4	11	17	44	25	0	2	4	6	5	33	164
火起こし (夏季)	—	—	—	56	136	—	—	—	—	—	—	—	192
さき織 (冬季)	—	—	—	—	—	—	—	—	17	12	—	—	29
合計	62	64	27	117	322	66	10	32	50	26	28	91	895

団体													
メニュー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
拓本体験	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	15
勾玉づくり	201	86	116	79	64	23	7	66	0	0	45	0	687
鑄造体験	0	8	0	105	15	6	31	0	0	34	0	0	199
土器・土偶づくり	113	0	0	48	35	0	246	0	0	0	0	0	442
火起こし	309	94	124	124	10	47	218	66	0	0	0	0	992
合計	623	188	240	356	124	76	517	132	0	34	45	0	2,335

表9 平成25年度化財センター入館者数

月	開館日数 (日)	入館者数 (人)		
		個人	団体	計
4	25	561	326	887
5	27	676	152	828
6	26	731	223	954
7	26	869	270	1,139
8	27	990	94	1,084
9	25	706	317	1,023
10	27	713	478	1,191
11	25	589	120	709
12	23	667	47	714
1	24	495	104	599
2	19	328	88	416
3	25	719	34	753
合計		299	8,044	2,253
				10,297

表10 平成25年度団体利用・行政視察一覧

団体利用 (学校以外)			
年月日	団体名	利用内容	人数
2013/5/22 (水)	亀田福寿大学探訪部	見学	50
2013/6/5 (水)	西区役所健康福祉課	見学	28
2013/6/14 (金)	動く市政教室「立仏校区ふれあい協議会」	見学	26
2013/6/15 (土)	東北・関東前方後円墳研究会	見学	16
2013/6/18 (火)	青年海外協力協会 (バプアニューギニア)	見学・勾玉づくり	14
2013/6/29 (土)	中学通親長会	見学	15
2013/7/2 (火)	動く市政教室「上近江二丁目自治会」	見学	22
2013/7/7 (日)	東町子ども会	見学・勾玉づくり	23
2013/7/21 (日)	湯東今井子供会	見学・火起こし 勾玉・土偶づくり	60
2013/8/4 (日)	寺尾新町第一自治会	見学・勾玉・土偶・和同開珎	35
2013/8/6 (火)	明田子ども会	見学・土偶づくり	18
2013/8/9 (金)	コープにいがた	見学・火起こし・勾玉づくり	15
2013/8/31 (土)	新潟県立歴史博物館友の会	見学	26
2013/9/7 (土)	黒崎南小まめっこクラブ	見学・勾玉づくり・和同開珎	30
2013/9/8 (日)	身体障害者西区福祉協会	見学	50
2013/9/10 (火)	個人で参加動く市政教室 「西区・西蒲区の遺跡をめぐる」	見学	30
2013/9/11 (水)	西区健康福祉課	見学	26
2013/9/12 (木)	個人で参加動く市政教室 「西区・西蒲区の遺跡をめぐる」	見学	25
2013/9/19 (木)	坂井若松会	見学	25
2013/9/20 (金)	動く市政教室「寺尾新町第二自治会」	見学	27
2013/9/27 (金)	老人クラブ亀楽会	見学	20
2013/9/29 (日)	新潟県地名研究会	見学	37
2013/10/1 (火)	西区役所健康福祉課	見学	19
2013/10/10 (木)	月島月寿クラブ	見学	23
2013/10/10 (木)	デイサービスセンター小新	見学	14
2013/10/11 (金)	動く市政教室「西区山田校区ふれあい協議会」	見学	21
2013/10/14 (月)	介護老人保健施設回生園	見学・土偶づくり	20
2013/10/22 (火)	介護老人保健施設回生園	見学・拓本	20
2013/10/23 (水)	介護老人保健施設回生園	見学・和同開珎	17
2013/10/24 (木)	デイサービスセンター小新	見学	15
2013/10/25 (金)	西区役所健康福祉課	見学	16
2013/11/6 (水)	白根商工会女性部	見学	30
2013/11/13 (水)	市小研北部ブロック (社会)	見学	30
2013/11/23 (土)	吉田東伍記念博物館友の会	見学	20
2013/12/5 (木)	岩室地区公民館さわやかセミナー	見学	22
2013/12/11 (水)	市小研中部ブロック (社会)	見学・和同開珎	25
2014/2/1 (土)	ウェルカム新潟	見学・勾玉づくり	30
2014/2/16 (日)	三条市生涯学習課 (縄文楽検定事前講習会)	見学	29
合計			969

団体利用 (学校)			
年月日	団体名	利用内容	人数
2013/4/16 (火)	亀田西小学校	見学・火起こし・勾玉づくり	107
2013/4/17 (水)	小林小学校	見学・火起こし・土器づくり	37
2013/4/17 (水)	笠木小学校	見学・勾玉づくり	16
2013/4/23 (火)	浜浦小学校	見学・火起こし・土偶づくり	55
2013/4/25 (木)	南中野山小学校	見学・火起こし・勾玉づくり	87
2013/4/26 (金)	升湯小学校	見学・火起こし・土器づくり	17
2013/5/2 (木)	大鷲小学校	見学・火起こし・勾玉づくり	24
2013/5/9 (木)	坂井東小学校	見学・火起こし・勾玉づくり	70
2013/5/29 (水)	内野小・中学校希望ヶ丘分校	見学・火起こし・和同開珎	15
2013/6/26 (水)	木戸小学校	見学・火起こし・勾玉づくり	104
2013/6/28 (金)	黒崎南小学校	見学・火起こし	20
2013/7/12 (金)	小針小学校	見学・火起こし・和同開珎	105
2013/9/25 (水)	関屋中学校	職場体験	4
2013/9/25 (水)	笹口小学校	見学・火起こし	47
2013/9/26 (木)	関屋中学校	職場体験	4
2013/10/1 (火)	坂井輪小学校	見学・火起こし・土器づくり	126
2013/10/11 (金)	松野尾小学校	見学・火起こし 勾玉づくり・和同開珎	15
2013/10/16 (水)	黒崎中学校	地域学習	36
2013/10/17 (木)	山田小学校	見学・火起こし	75
2013/10/24 (木)	桜が丘小学校	見学・火起こし・土器づくり	97
2013/11/1 (金)	濁川小学校	見学・火起こし・勾玉づくり	70
2014/1/21 (火)	黒崎南小学校	見学・和同開珎	37
2014/1/23 (木)	立仏小学校	見学・民具学習	67
2014/2/18 (火)	根岸小学校	見学・民具学習	29
2014/3/11 (火)	黒崎南小学校	見学・民具学習	34
合計			1,298

行政視察・研究会			
年月日	団体名	利用内容	人数
2013/4/28 (日)	弘前大学・石油の世界館友の会	資料調査	7
2013/6/27 (木)	弘前大学	資料調査	2
2013/8/1 (木)	能登町教育委員会	施設見学	3
2013/9/6 (金)	アスファルト研究会	資料調査・実験	15
2013/11/30 (土)	アスファルト研究会	研究会・資料調査	16
2014/2/21 (金)	静岡県埋蔵文化財センター	施設見学	3
合計			46



新潟市遺跡発掘調査速報会



夏休み子ども歴史体験「君も考古学者」

催した。江戸千家新潟不白会の協力のもと、大正・昭和期の写真パネルや民具を待合に展示し、旧武田家住宅の茶の間にて立礼式で行った。開館以来まだ来館されていない地元の方に来ていただくことができ、一定の効果があつた。

速報会 平成25年度の遺跡発掘調査速報会では、講演の部に新潟大学の橋本博文教授を招き、同年8月の新聞報道により市民の関心が高まっていた「牡丹山諏訪神社」境内で採集された埴輪片について講演をしていただいた。

出前講座・職員派遣 文化財センターでは、研究団体、地方自治体、市民団体などに依頼に応じて職員派遣を行っている。本市では、通常の派遣申請以外に、市民が市政に関するテーマについて学びたい場合に職員を派遣する「市政さわやかトーク宅配便」制度がある。これはFAXやメールで必要事項を記載し担当課に送れば、その他の書類手続きが不要という簡便さが利点の制度である。

平成25年度には、講座形式の派遣依頼のほか、公民館での体験活動での派遣依頼がある。このような体験活動を安易に出前で行うと、入館者につながらないとの批判もあるが、文化財センターが公共交通機関で来られない立地であることから、より多くの子どもたちに歴史に興味を持ってもらうきっかけとして、出前の依頼を受けている。そして、出前を受ける際には、ただの「体験工作」にならないよう、必ず遺跡についての話をするように心がけている。

(2) 施設利用

文化財センターでは、展示見学のほかに「体験コーナー」として研修室の一部を使用して新潟や埋蔵文化財に関連した体験学習ができるスペースを設置している。体験コーナーでは、「開館時間中であれば、いつでもだれでも予約なしでできる個人向け体験」と、「予約をいただいた団体向けの体験」の2種類がある。いずれも材料費相当の負担をいただいている。また、無料の体験として新潟市内から出土した土器をもとに制作した「土器パズル」が5点ある。

平成25年度には、団体向けの火起こし体験を個人で体験できるようにしてほしいという要望に応え、個人向けに夏休み期間中は火起こし体験、冬休み期間中は裂き織り体験ができるようにした。結果、火起こし体験が192名、裂き織り体験が29名の参加者があつた。

また、旧武田家住宅及び体験広場（芝生）の貸出（有料）を行っている。利用状況は表7のとおりである。



中学生職場体験



旧武田家住宅で民具とお茶会を楽しむ会



大沢遺跡の縄文土器を作る

(3) 入館者数

文化財センターの入館者数は表9のとおりである。平成24年度に比べて個人・団体ともにわずかに減少している。なお、空調機の燻蒸作業のため2月に5日間の臨時休館を行った。

入館者のアンケートからは、「展示室内にもっと椅子をおいて欲しい。」「解説文が子どもには難しい内容。」「また次回も来たいと思う工夫が必要。」等、今後の改善につながるご指摘をいただいた。

平成26年3月末までの開館からの累計入館者数は30,992人である。

(4) 団体見学・施設見学

小学校や子ども会などの子どもが主体の団体では、見

表11 平成25年度資料対応件数一覧

考古資料
特別利用許可

件数	申請者	資料	点数	来館日	備考
1	石油の世界館友の会 中島哲宏	大沢谷内遺跡 アスファルト	10箱	平成25年 4月28日	出土アスファルトの観察・撮影、アスファルトの出土状況や分布、利用の実態などの調査
2	個人	的場遺跡確認調査 土器	41	平成25年 6月21日	城の山古墳調査に関する古墳時代集落の検討
3	弘前大学人文学部付属亀ヶ岡文化研究センター 上條信彦	大沢谷内遺跡 アスファルト	3	平成25年 6月27日	弘前大学特別研究「冷温帯地域の遺跡資源の保存活用促進プロジェクト」におけるアスファルトの利用法と流通実態の研究
4	個人	鳥屋遺跡 土器	1	平成25年 7月10日	土器づくり
5	個人	大沢谷内遺跡 アスファルト塊・アスファルト 付着土器	10箱	平成25年 7月30日	研究・書籍執筆
6	個人	南赤坂遺跡 石器	40	平成25年 8月19日	研究・論文執筆
7	個人	大沢谷内遺跡 土器	81	平成25年 9月18日	修士論文作成
8	愛知県陶磁美術館 井上喜久男	新潟市内出土土施陶器	110	平成25年10月 3日	愛知県史「別編窯業1 古代製陶」編集
9	個人	緒立A遺跡確認調査 図面	一式	平成25年12月17日	城の山古墳調査に関する古墳関連調査の検討
10	個人	南赤坂遺跡 石器	40	平成26年 1月29日・ 2月10日	研究・論文執筆
11	個人	南赤坂遺跡 土器	1	平成26年 2月20日	城の山古墳出土遺物に関する資料調査
12	個人	松影入遺跡 土器	2	平成26年 2月25日	発掘報告書の理解を深める
13	新潟大学災害・復興科学研究所 齋藤瑞穂	手代山北遺跡ほか 漆器	18	平成26年 3月25日	近世漆器に関する資料紹介執筆
14	個人	南赤坂遺跡 土器	48	平成26年 4月 3日	南赤坂遺跡等の縄文土器の特徴について学習
15	個人	茶院遺跡ほか 土器	37	平成26年 4月13日	調査研究

貸出許可

件数	申請者	資料	点数	貸出期間	備考
1	医療社団法人幸人会 理事長 阿達敏幸	諏訪遺跡 土器	5	平成25年 4月 1日～ 平成26年 3月31日	常設展示
2	新潟市江南区郷土博物館 市長 篠田 昭	砂崩遺跡ほか 土器ほか	51	平成25年 4月 1日～ 平成26年 3月31日	常設展示
3	中之口資料館 市長 篠田 昭	茶院A遺跡 土器ほか	8	平成25年 4月 1日～ 平成26年 3月31日	常設展示
4	新潟市西川地区公民館 館長 布施正男	中才遺跡 須恵器横瓶	1	平成25年 4月 1日～ 平成26年 3月28日	西川学習館にて展示、3月28日で展示終了
5	新潟市北区郷土博物館 館長 宮崎芳春	鳥屋遺跡 土製品・石器 鳥屋遺跡 土器レプリカ	23 12	平成25年 4月 1日～ 平成26年 3月31日	常設展示
6	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	笹山前遺跡ほか 土器ほか 的場遺跡 レプリカ 的場遺跡 土錘・石錘 近世新潟町遺跡 陶磁器・泥面子	84件 54 48 27	平成25年 4月 1日～ 平成26年 3月31日	常設展示
7	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	大沢谷内北遺跡ほか 漆器	12	平成25年 6月18日～ 9月10日	企画展「新潟の漆器」展示
8	新潟県立歴史博物館 館長 中島太郎	緒立遺跡ほか 土器ほか	114	平成25年 7月 9日～ 9月20日	企画展「弥生時代のいがた」展示
9	信濃川火焔街道連携協議会 会長 篠田 昭	秋葉遺跡 王冠型土器	1	平成25年 8月 1日～ 8日	連携展示会「信濃川流域の火災土器展」展示
10	十日町市博物館 館長 佐野芳隆	西郷遺跡 足形土版	2	平成25年 9月 9日～ 11月15日	企画展「ビジュアル縄文博物館」展示
11	新潟大学学術情報基盤機構旭町学術資料展示館 館長 橋本博文	山谷古墳 土器ほか	40	平成25年 9月30日～ 12月 9日	企画展「古墳研究と文化財保存運動の先達―甘粕健の足跡―」展示

掲載許可

件数	申請者	資料	点数	許可日	備考
1	有限会社スタジオパラム 代表取締役 清水信次	古津八幡山遺跡・弥生の丘展示館関係写真	8	平成25年 4月18日	『関東・甲信越古代遺跡ガイド』掲載
2	株式会社新泉社 代表取締役 石垣雅設	御井戸遺跡出土 朱漆塗り水差し形容器の出土 状況写真、片口容器と水差し形容器の出土状況 写真	2	平成25年 4月18日	『考古学研究法』掲載
3	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	大沢谷内北遺跡ほか 漆器写真	12	平成25年 5月 7日	企画展「新潟の漆器」図録掲載
4	国土交通省北陸地方整備局北陸技術事務所 所長 古川正幸	大沢谷内遺跡 噴砂痕写真	1	平成25年 5月14日	『石川・富山県内液状化しやすさマップ』掲載
5	十日町市博物館 館長 佐野芳隆	西郷遺跡 足形土版写真	2	平成25年 6月25日	企画展「ビジュアル縄文博物館」リーフレット掲載
6	新潟県立歴史博物館 館長 中島太郎	緒立遺跡ほか 出土品等写真	46	平成25年 6月25日	企画展「弥生時代のいがた」図録掲載
7	新潟県立歴史博物館 館長 中島太郎	古津八幡山遺跡紹介DVD	1	平成25年 7月 8日	企画展「弥生時代のいがた」展示室にて上映
8	新潟県立歴史博物館 館長 中島太郎	古津八幡山遺跡 遠景写真	1	平成25年 7月26日	企画展「弥生時代のいがた」図録掲載
9	有限会社三狭舎 代表取締役 安田清人	古津八幡山遺跡 航空写真、葛蒲塚古墳 航空 写真	2	平成25年 7月 5日	洋泉社歴史新書『あなたの知らない新潟県の歴史』掲載
10	新潟県教育庁文化行政課 課長 本田雄二	古津八幡山遺跡 航空写真、ガイドブックNo.1 掲載イラスト	2	平成25年 7月19日	埋蔵文化財イベント広報紙「新潟まいぶんナビ秋・冬号」掲載
11	福岡県立大学人間社会学部公共社会学科 岡本雅享	南赤坂遺跡 土器写真	1	平成25年 7月30日	山陰中央新聞連載記事「出雲を原郷とする人たち 越後佐渡国編」掲載
12	信濃川火焔街道連携協議会 会長 篠田 昭	大沢谷内遺跡 遠景写真、秋葉遺跡 発掘調査状況 写真	2	平成25年 7月30日	「信濃川流域の火災土器展」展示パネル作成
13	株式会社タカヨシ 代表取締役社長 高橋春義	古津八幡山遺跡 復元竪穴住居写真	1	平成25年 9月 3日	新潟県労働金庫情報誌「ニコル」掲載
14	株式会社コム 代表取締役社長 山本勝司	古津八幡山古墳 全景写真・発掘調査風景写真	3	平成25年12月19日	NST新潟総合テレビ特番「城の山古墳」にて使用
15	新潟中心商店街協同組合 理事長 松崎利春	近世新潟町跡 図面・出土遺物写真	9	平成26年 2月28日	第2回古町誕生祭の展示パネルに使用
16	新潟日報社読者ふれあいセンター 次長 渡辺 勇	大沢谷内遺跡 アスファルト写真	5	平成26年 3月 6日	新潟日報こども新聞「週刊ふむふむ」掲載
17	個人	馬場屋敷遺跡 木簡赤外線写真	1	平成26年 3月17日	新潟県石仏の会会報「ストーンサークル」掲載
18	株式会社コム 代表取締役社長 山本勝司	古津八幡山古墳 全景写真	2	平成26年 3月18日	「城の山古墳」DVD作成

寄附申込

件数	申込者	資料	点数	申込日	備考
1	個人	御井戸遺跡 土器ほか	423	平成25年10月18日	『巻町史資料編1 考古』掲載資料含む
2	個人	縄文土器深鉢	1	平成25年12月16日	角田山沖海揚がり
3	個人	珠洲焼堯・播鉢	2	平成26年 1月 7日	角田山沖海揚がり
4	個人	笹山前遺跡ほか 土器ほか	1976	平成25年12月25日	『横越町史資料編』掲載資料含む
5	個人(青木宏氏ご遺族)	東港出山・緒立・的場遺跡関係資料ほか	一式	平成25年 1月15日	
6	個人(青木宏氏ご遺族)	書籍	479	平成25年 2月 3日	

学だけではなく体験学習を組み込むことが多い。特に小学校では社会科の授業として4・5月には6学年の歴史で、1月には3学年の昔のくらしで利用する傾向にある。平成25年度では、小学校・中学校の利用は25校であった。社会科の授業以外に、職場体験実習として利用する学校もある。また、介護老人施設の見学利用が増加してきているのが、当センターの特徴でもある。

(今井さやか)

(5) 資料利用

(a) 手続きに関する条例・規則

特別利用許可 文化財センター内で考古資料の熟覧・実測・撮影等を行う場合：『新潟市文化財センター条例』及び『新潟市長から委任を受けた新潟市文化財センター管理に関する規則』により許可申請書を市教委宛に提出する。

貸出許可 考古資料の寄託・借用・貸出等をする場合：『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』により許可申請書等を市教委に提出する。

寄附申込 考古資料の寄附申し込みをする場合：『新潟市物品管理規則』により物品寄附申込書を市長あてに提出する。

民俗資料 民俗資料の利用・貸出をする場合：『新潟市物品管理規則』により許可申請書を市長あてに提出する。

なお、分析資料提供・掲載許可手続きは適用規則がないため、任意書式提出を依頼している。

(b) 利用件数

以下、平成25年度の各利用件数について記す。

特別利用許可 考古資料に関して熟覧・実測・撮影の利用件数は15件である。

貸出許可 考古資料と民具資料の貸出許可は、博物館等での常設展示に伴う年度単位の貸出と企画展等の短期間の貸出がある。前者では次年度も引き続き貸出を希望する場合は年度ごとに手続きを行っている。公民館等では地域の歴史に親しみを感じてもらおう観点からその地域の遺跡から出土した遺物の貸出を行っている。資料の貸出期間等は『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』に規定されている。常設展示に伴う長期貸出6件、企画展等に伴う短期貸出5件である。

掲載許可 文化財センターが保管する写真や報告書等掲載資料の提供を希望する場合や申請者が貸出を受けて撮影したものを印刷物等で使用する場合がある。利用件数は18件であった。

寄附申込 6件である。寄附していただいた資料の一

部は『巻町史』・『横越町史』掲載資料も含まれている。寄附していただいた資料は文化財センターでの展示に活用している。なかでも、郷土史家青木宏氏のご遺族より寄付し

ていただいた緒立遺跡や的場遺跡等の調査資料や写真等は、昭和30年代に行った市内で最も古い行政が発掘調査を行った記録として重要である。

(6) 図書の収蔵と閲覧

(a) 収蔵

図書室の面積は89.33㎡で、室内には単式固定5段8連1台、複式移動7段7連5台、複式移動7段8連6台の棚が列設置されている。棚段数は総数で1,202段、約5万冊の図書の収蔵が可能である。なお、分類整理作業が必要な図書や登録未了図書に関しては、隣接する埋蔵文化財収蔵庫の棚に仮置きをし、登録が終わったものから順次配架を行っている。

図書の収蔵状況は、旧市町村で所蔵していた発掘調査報告書が合併に伴い集められた結果、新潟県内の発掘調査報告書には複本が多数生じるようになった。複本があり利用頻度の高い報告書は、文化財センター図書室の他、調査研究室と保存処理室、そして秋葉区にある弥生の丘展示館に置いて利用している。

書誌情報の入力作業は、司書（臨時職員）3名を雇用して、入力作業を継続して行っている。なお、書誌情報の入力は平成21年度に構築した埋蔵文化財情報管理システムを利用している。入力作業と併せ、図書の管理のために寄贈者印・所蔵印を押捺し、3段ラベル・バーコードを貼る作業を行っている。平成26年3月末までの入力数は38,054冊である。

(b) 利用状況

図書室では、2名分の閲覧スペースがある。大まかに配架作業が終了した平成24年6月から閲覧開始するとともに、著作権法の範囲内でコピーサービス（有料）も開始した。図書室の利用人数とコピーサービス利用人数は表12のとおりである。

なお、収蔵図書は、発掘調査報告書等の発行部数の少ない稀観本がほとんどのため、館外貸出は行っていない。

(相澤裕子)

表12 平成25年度図書室・コピー利用者数

月	図書室利用 (人)	コピー利用 (人)
4月	11	2
5月	5	0
6月	9	3
7月	8	0
8月	13	3
9月	9	1
10月	9	7
11月	3	0
12月	6	1
1月	6	3
2月	3	1
3月	6	0
合計	88	21

7 保存処理

(1) 木製品の保存処理について

処理の方針 平成25年度には21遺跡34調査分422点の木製品の保存処理を行った(表13)。処理方法は資料の形態・材質・劣化度を考慮しPEG(ポリエチレングリコール)含浸法を中心に行っている。平成24年度に導入の可能性をさぐり試験的に行ったトレハロース含浸法について、PEG法では漆被膜がはがれて行えない漆器や木質が丈夫で若干の強化で済む近世遺跡の木製品についてトレハロースで行うこととした。また、センターの含浸槽に入らない大きな遺物については、適宜外部委託を行っている。

処理工程 各処理法による作業は、遺物の洗浄、脱鉄処理、処理前の写真撮影、処理前の重量等の計測といった共通作業以降、以下のような工程で行われている。

PEG含浸法

①含浸 低濃度のPEG水溶液(重量濃度20%)から徐々に濃度を上げ、最終的に100%PEG溶液に含浸する。

②引きあげ 溶液から資料を取り出し、温水で表面を洗浄し、常温で固化させる。

③接着・復元 破片の接着や亀裂・欠損部分の復元を行う。接着剤はシアノアクリレート系及びエポキシ系接着剤を用いる。また、補てんはエポキシ系樹脂を使用する。

④調査・記録 処理中に変化した箇所はないか点検し、処理後の記録をとり、写真撮影なども併せて行う。

トレハロース含浸法 漆器などのPEGに向かない遺物や、保存処理を急ぐものについて、トレハロース含浸法で行っている。

①含浸 低濃度のトレハロース水溶液(重量濃度20%)から徐々に濃度を上げ、最終的に72%トレハロース溶液に含浸する。漆器の場合は常温で含浸できる50%トレハロース溶液までとする。

②引きあげ 溶液から資料を取り出し、風を当てながら結晶化を行う。またスチームを使用した表面処理を行う。

③接着・復元以降の工程は、PEG含浸法に同じである。

なお、すべての作業経過を保存処理カードに記載し、処理後の資料は温湿度管理された特別収蔵庫において保管している。

処理の概要 平成25年度は、発掘から20年以上が経過し劣化の著しい的場遺跡(1989007)、上浦B遺跡(1992004)、山木戸遺跡(1994004)出土木製品の保存処理をPEG含浸法で行った。

(2) 金属製品・その他の保存処理について

処理の方針 金属製品では主に鉄製品と青銅製品の保存処理を行った。平成25年度には6遺跡343点の保存処理を行った(表14)。

新潟市では、福岡市埋蔵文化財センターを参考に、木製品の保存処理の含浸期間中に金属製品の保存処理を行うというサイクルで業務を行っている。保存処理を行う順序は、原則調査年次が古いものからとしている。

処理工程 鉄製品と青銅製品では、処理の工程が多少異なるが、顕微鏡による表面観察、処理前の写真撮影、X線写真撮影、処理前の遺物の計測といった共通の作業が行われ保存処理カードに記録される。保存処理カードは(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団と同じものを使用している。

①クリーニング 資料に付着した土やさびの除去を行う。アルコール洗浄を行ったのち、鉄製品はグラインダーやエアブラシを使用。銅・青銅製品については顕微鏡下でメスを用いてさびや汚れを除去する。

②脱塩処理 鉄製品において腐食を促進する塩化物・硫化物イオンを取り除く必要がある。高温・高圧のオートクレーブを使用して作業を行っている。

③安定化 青銅製品においてはBTA(ベンゾトリアゾール)によって塩類の不活性化を図っている。

④樹脂含浸 資料の強化や腐食促進因子からの隔離を目的として、合成樹脂による保護を行っている。鉄製品にはパラロイドNAD-10を、銅・青銅製品にはパラロイドB72を使用している。内部まで樹脂を浸透させるため70cmHg程度の減圧含浸を行っている。

⑤接着・復元 接着については、シアノアクリレート系接着剤またはエポキシ系接着剤を使用している。また補強や欠損の補てんにはエポキシ系樹脂を使用する。

⑥記録・保管 処理中に変化した箇所はないか点検し、処理後の記録をとり、写真撮影なども併せて行う。保存処理後もできる限り安定した環境に保管するためにバリアフィルムと脱酸素剤を資料と一緒に封入し(三菱ガス化学RPシステム)、特別収蔵庫に収蔵している。

処理の概要 平成25年度は、調査年次の古い小丸山遺跡(1986001)から保存処理を行った。鉄製品では山木戸遺跡(1994004)の資料が多く平成25年度中に山木戸遺跡の鉄製品保存処理を終えることができなかった。

青銅製品については、再整理作業の過程であらたに出来た資料の保存処理を行うにとどまった。

(3) 保存処理外部委託について

前記したように、PEG処理法に向かない木製品など当センターで保存処理ができないものについて、外部委託を行っている。(今井さやか)

表13 平成25年度木製品、鉄製品、銅・青銅製品保存処理一覧

遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数(点)	備考
若宮様遺跡	1983004	木製品	漆器椀	トレハロース	7	
の場遺跡	1989007	木製品	箸	PEG	139	
の場遺跡	1989008	木製品	漆器椀	トレハロース	25	
上浦A遺跡	1992001	木製品	木柱	PEG	8	
上浦B遺跡	1992004	木製品	木柱	PEG	52	
山木戸遺跡	1994004	木製品	井戸側部材	PEG	11	
松影A遺跡	1997106	木製品	漆器椀	トレハロース	1	県確認調査
内野遺跡	1999001	木製品	漆器椀	トレハロース	1	
前田遺跡	1999002	木製品	漆器椀	トレハロース	1	
桜大門遺跡	2004002	木製品	漆器椀	トレハロース	1	
浄楽遺跡	2004132	木製品	漆器椀	トレハロース	1	
羽黒西遺跡	2004152	木製品	漆器椀	トレハロース	2	
森田遺跡	2004202	木製品	漆器椀	トレハロース	1	
沖ノ羽遺跡	2005002	木製品	箸	PEG	95	
駒首湯遺跡	2006004	木製品	斎串	トレハロース	49	
結七島遺跡	2006006	木製品	漆器椀	トレハロース	2	
近世新潟町跡	2006147	木製品	漆器椀	トレハロース	1	
近世新潟町跡	2006216	木製品	漆器椀	トレハロース	2	
手代山北遺跡	2007007	木製品	漆器椀	トレハロース	1	
下山地内	2007217	木製品	漆器椀	トレハロース	1	遺跡外
上浦A遺跡	2007236	木製品	下駄	トレハロース	1	絵入り
上浦A遺跡	2008007	木製品	ひょうたん	トレハロース	1	
近世新潟町跡	2008247	木製品	板材、杭	PEG	6	
近世新潟町跡	2009241	木製品	漆器椀	トレハロース	2	
白根バイパス	2009244	木製品	漆器椀	トレハロース	2	県試掘調査
細池寺道上遺跡	2010003	木製品	漆器椀	トレハロース	1	
大沢谷内遺跡	2012001	木製品	もみ殻	トレハロース	1	
近世新潟町跡	2012119	木製品	漆器椀	トレハロース	7	
正尺A遺跡	2012140	木製品	板状木製品	トレハロース	1	
近世新潟町跡	2012191	木製品	漆器椀	トレハロース	1	
近世新潟町跡	2012201	木製品	漆器椀	トレハロース	1	
近世新潟町跡	2012202	木製品	漆器椀	トレハロース	2	
正尺A遺跡	2013105	木製品	板状木製品	トレハロース	1	
下郷南	2013106	木製品	ひょうたん	トレハロース	1	
合計					422	
小丸山遺跡	1986001	鉄製品	鎌	クリーニング 樹脂含浸	7	
新五兵衛山遺跡	1988001	鉄製品	釘	クリーニング 樹脂含浸	24	
荒木前遺跡	1989004	鉄製品	釘	クリーニング 樹脂含浸	33	
の場遺跡	1989007	鉄製品	鏝	クリーニング 樹脂含浸	17	
居村A遺跡	1990003	鉄製品	釘	クリーニング 樹脂含浸	1	
山木戸遺跡	1991004	鉄製品	釘	クリーニング 樹脂含浸	257	
合計					339	
小丸山遺跡	1986001	青銅製品	火箸	クリーニング 樹脂含浸	3	
の場遺跡	1970001	青銅製品	不明銅製品	クリーニング 樹脂含浸	1	
合計					4	

表14 平成25年度外部委託保存処理一覧

遺跡名	調査番号	点数	器種等	委託先	金額(円)	合計(円)
西郷遺跡	2006012	13	木柱、 他3遺跡の漆器	元興寺 文化財研究所	4,567,584	5,463,696
沖ノ羽遺跡	2005002	9	草履芯他	元興寺 文化財研究所	896,112	

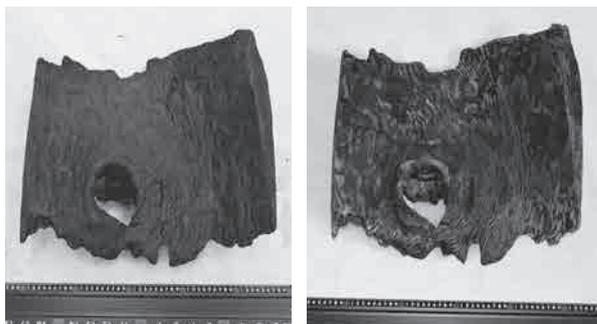
8 決算額

平成25年度の文化財センターの決算額は表15の通りである。
(福地康郎・上田俊哉)

表15 平成25年度文化財センター決算額

区 分		決算額(円)
○使用料及び手数料		911,950
文化財センター設備使用料		1,450
行政財産使用料		910,500
○国庫支出金		44,399,000
市内遺跡範囲等確認調査事業費		12,024,000
埋蔵文化財保存処理		5,979,000
満日地区圃場整備発掘調査費		1,350,000
両新地区圃場整備発掘調査費		3,650,000
道上地区圃場整備発掘調査費		2,375,000
史跡古津八幡山遺跡整備・保存活用事業費		5,774,000
文化財センター保存・活用事業		13,247,000
○諸収入		133,780,000
満日地区圃場整備発掘調査		24,300,000
両新地区圃場整備発掘調査		65,700,000
道上地区圃場整備発掘調査		42,750,000
小規模緊急発掘調査		1,030,000
○雑入		747,950
○市債		3,000,000
(合併)史跡古津八幡山遺跡整備事業債		3,000,000
合 計		182,838,900

区 分		決算額(円)
○文化財保護調査事業		1,509,861
埋蔵文化財保護費		1,509,861
○市内遺跡範囲等確認調査事業		32,561,234
○出土品整理活用事業		3,980,291
○埋蔵文化財本格発掘調査事業		148,530,000
満日地区圃場整備発掘調査		27,000,000
両新地区圃場整備発掘調査		73,000,000
道上地区圃場整備発掘調査		47,500,000
小規模緊急発掘調査		1,030,000
○古津八幡山古墳保存整備事業		6,410,450
○史跡古津八幡山遺跡整備活用事業		6,762,366
○史跡古津八幡山遺跡及びガイダンス施設管理運営費		11,253,066
○文化財センター管理運営費		76,537,134
○加入団体等負担金		800,000
信濃川火焔街道連携協議会負担金		800,000
合 計		288,344,402



井戸側 左：保存処理前 右：保存処理後（山木戸遺跡）